

1	心霊スポット	見知らぬカップルが幽霊に驚き逃げていく
2	心霊さんいらっしやい	心霊さんいらっしやい番組風(新婚さんいらっしや

『心霊さんいらっしやーい！』

登場人物

小川時子・・・おじやが森に40年間すんでいた16歳の少女の幽霊

武・・・幽霊に取り付かれた男。みなみという彼女がいる

みなみ・・・武の彼女。どうやら幽霊は見えていないらしいが・・・

唯・・・ちよつと軽めの女

隼人・・・武の友人

健一・・・武の友人

いのパロディ)

桂三枝ふんする武

山瀬まなふんする時子

音楽などなる

武、時子「心霊さん、いらっしやくい！」

武「さあさあ始まりました、心霊さんいらっしやい。先週はすごかったですね、あんなハプニングが飛び出しました」

時子「あのハプニングはすごかったですね」

武「今日はいったいどんな下ネタが飛び交うのでしょうか？では、次の心霊さんは？」

時子「はい、次の心霊さんは神奈川県からお越しの死にたてはやばやのカップルです、どうぞー」

修平「こんばんは、神奈川県横浜市から来ました、外人墓地が出没地です。佐々木修平と申します」

明子「同じくその周辺で地縛霊をやってます。妻明子です」

武「なにか聞くところによると、お二人さんの出会いはかなり変わっていると聞いたんですが」

修平「そうなんです。生前僕が保険会社に勤めていた頃、残業で会社に残ってしまっていて、そうですねちょうど2時ごろでしょうか、帰りに外人墓地のカーブを曲がったところで、妻明子が後ろの座席に乗ってたんです・・・。思わずハンドルを切ってしまっ」

明子「そうなんです、ちよつと脅かすつもりが、交通事故で即死です」

武「えー！？ちゃんと生命保険はかけてたの？」

修平「はい。その辺はあの、生前の妻がしっかりしてたもので」

武「ちよつ、ちよつと生前の妻って？」

修平「ちよつと×が・・・」

椅子から転げる武

武「びつくりしたなそれ。およよ」

明子「またその話？前の奥さんのことはつかり言うんだもん」

修平「この話になるといつも喧嘩が絶えなくて、その相談に来ました」

時子「前妻の方が死んだらどうするんですか？」

明子「この人って生前の話ばかりするんです。未練たらたらというかなんていうか。自分が死んでるって事、もつとちやんと理解して欲しくて」

武「熱のこもった話になつてきましたね」

時子「死んでるんでさほど熱くは無いと思います」

武「およよ」

修平「実はその生前の妻が危篤中でちよくちよく会つてはいるんですけど」

明子「やつぱり会つてたんだ」

修平「だって、死ぬのが初めてだったもんで」

武「何回も死ぬもんじゃないでしょ、あんだ」

時子「とりあえず前の奥さんには成仏して頂いたらどうですか？」

武「怖いこというな、君」

明子「そろそろ、子供でも作ろうかと思つて」

武「怖い事いうな君」  
夢から覚める武

3	家実景	武 「うわーーーーー」	武 「嫌な夢見たな」 目の前にさつきのカップル
4	居酒屋など	皆でわいわい話している 唯 「つてな具合で幽霊が出るらしいよ」 隼 人 「マジかよ？見に行くしかねーな」 友 人 「すいませーん、おかわり」 健 一 「でもさ、幽霊持ち帰りなんてことなんねーよな？」 隼 人 「そんなことある訳ねーだろ・・・それより俺は唯をお持ち帰りしたいけどね」 唯 「いーよ。その代わり、先約の後ね」 健 一 「軽いなあ、お前ら」 隼 人 「あ、そうだ。たまには武も誘うか」	

5	部屋	唯 「またみなみに振り回されてんじゃないの？」 健 一 「あいつらまだ付き合ってたの？」 隼 人 「意外にああいういい加減な奴が続くんだよ」	
		彼女といちやいちやしている武 部屋の隅に立っている2人の幽霊	
		武 「何か今日変な夢見ちやつて、初めて金縛りにあっちゃつて」 みなみ 「怖い事言わないでよ、でもなんか誰かに見られてるような気がする」 武 「見られてるなんて興奮する事言わないでよみなみちゃん」 みなみ 「また始まった」 武 「かわいいよ。今日も食べちやおうかな」 みなみ 「やだ、いつもそんなことばかり」 武 「はい、もしもし」 健 一 「もしもし、武？今、何してんの？」 武 「なんだ、隼人か。今みなみとこれからつて所」	

6	アパート概観	武 「待てないよー！ー！うわおー！」 みなみ 「あーん(はあと)」 武 「あつ・・・」 武 N A 「これから起こる不思議な体験をこの時はまだ知る由もなかった・・・」 みなみ 「どこに出してんのよ、早漏」	健 一 「なんだよ、これからつて。そんなことより、お前さみなみもいるならこれから肝試し行かない？」 武 「いいけど、1時間待つてくんない？すぐ終わるから」 健 一 「うん、わかった。待つてるよ・・・ちゃんと風呂は入れよ」 武 「大丈夫だよ、そんなの。任せろよ。じゃあな、1時間後な」 服を脱ぎながら話す武 みなみ 「隼人君なんだつて？」 武 「なんかあ、肝試し行こうだつて」 みなみ 「お化けが出るどころ？いきたくない」 武 「今、イカせてあげるよ」 抱きつこうとする武 みなみ 「ちよ、ちよつと、ちよつと待つて！本当に誰かに見られてる気がしない？」 武 「さつきからじーつと俺が見てるよー」 みなみ 「ちよ、ちよつと、ちよつと待つて！」
7	待ち合わせ場所 公園	下を向いている武、みなみ みなみ 「まさか、私達の方が早く来るとは思わなかったね」 武 「うん・・・みなみ、もう1回だけチャンスを」 抱きつこうとする武 みなみ 「ちよ、ちよつとやめてよ。武つて本当にデリカシー無いよね。そういうことしか考えてないの？頭の中」 武 「そつればつかりじゃないよ。他にもいろいろ・・・やつぱりそればかりだな」	

6	アパート概観	武 「待てないよー！ー！うわおー！」 みなみ 「あーん(はあと)」 武 「あつ・・・」 武 N A 「これから起こる不思議な体験をこの時はまだ知る由もなかった・・・」 みなみ 「どこに出してんのよ、早漏」	健 一 「なんだよ、これからつて。そんなことより、お前さみなみもいるならこれから肝試し行かない？」 武 「いいけど、1時間待つてくんない？すぐ終わるから」 健 一 「うん、わかった。待つてるよ・・・ちゃんと風呂は入れよ」 武 「大丈夫だよ、そんなの。任せろよ。じゃあな、1時間後な」 服を脱ぎながら話す武 みなみ 「隼人君なんだつて？」 武 「なんかあ、肝試し行こうだつて」 みなみ 「お化けが出るどころ？いきたくない」 武 「今、イカせてあげるよ」 抱きつこうとする武 みなみ 「ちよ、ちよつと、ちよつと待つて！本当に誰かに見られてる気がしない？」 武 「さつきからじーつと俺が見てるよー」 みなみ 「ちよ、ちよつと、ちよつと待つて！」
7	待ち合わせ場所 公園	下を向いている武、みなみ みなみ 「まさか、私達の方が早く来るとは思わなかったね」 武 「うん・・・みなみ、もう1回だけチャンスを」 抱きつこうとする武 みなみ 「ちよ、ちよつとやめてよ。武つて本当にデリカシー無いよね。そういうことしか考えてないの？頭の中」 武 「そつればつかりじゃないよ。他にもいろいろ・・・やつぱりそればかりだな」	

8	心霊スポット前
---	---------

唯 「ここマジで出るんだよ。女の幽霊」

健 「それって・・・武の遺伝子の霊じゃねえ？」

みなみ 「ああ、さつきのテイッシュユのね・・・マジで情けねえ」

武 「・・・うん」

9	部屋
---	----

隼人 「おい、この辺だよ・・・この辺で写真撮ると女の霊が写るらしいよ」

唯 「こわーい。ほんとに出たらどうしよう」

みなみ 「武の早さに比べたらこんなの怖くないよ」

武 「・・・うん」

健 「じゃあ皆並んで、写真撮るぞ！」

皆並んで

健 「ぎやあああーーーー。うしろ！」

振り返る皆

そこには女の霊が立っている

全員 「ぎやあああーーーー」

全員逃げる

9	部屋
---	----

電話している武

電話の先はみなみ

みなみ 「怖かったね」

みなみ 「これから心霊スポット行くのになんか気分出不いな」

武 「じゃあ、他の事しようか」

ひつぱたかれる武

みなみ 「馬鹿！」

武とみなみが先に来ている

隼人たちが来る

隼人 「なんで、お前達のが早いわけ？」

武 「下を向いたまま」・・・」

みなみ 「5分で終わっちゃったの」

隼人 「あつそう・・・でもまあ、すつきりしてよかったな、武」

武 「・・・うん」

10	家実景
----	-----

武 「ぎやあああーーーー」

11	部屋
----	----

落ちていた電話

みなみ 「(音)どうしたの？武？」

びつ。電話が切られる

幽霊 「うるさい女」

倒れている武に

幽霊 「大丈夫？ねえ、私何もしないから、ねえ？」

武目を覚ます

武 「ぎやあああーーーー」

12	家実景
----	-----

武 「ぎやあああーーーー」

武 「どっち？お化け？スピード？」

みなみ 「馬鹿じゃない、あんた。お化けに決まってるでしょ」

武 「・・・そうだね見ちやったね・・・でも結構可愛くなかった？女の霊」

みなみ 「武今何考えてんの？まさかテイッシュユ片手に女の霊のこと考えてないでしょうね？」

武 「えつ？ま、まさかそんなはず無いよ」

ペンツ一枚テイッシュユ片手に電話している武

みなみ 「私、もう幽霊なんてこりこり」

武 「そうだね、あのまま部屋にいればよかったね」

みなみ 「それは無い」

武 「あはははは・・・次は頑張るよ」

みなみ 「どっちを？幽霊？スピード？」

武 「どっちも」

みなみ 「まさか、振り返ったらあの幽霊がいたりして」

振り返るとあの幽霊が立っている

武 「ぎやあああーーーー」

13	部屋
武	目覚める武
武	「う、うーん」 ぼつと起き上がる武
武	「つて、ていうかお宅はどちらさまで？」
幽霊	「ん、んん。私はおじやが森で40年刊幽霊やらせてもらってます。びつちびちの16歳、小川時子どうえーす」
武	「はあ、はじめまして下谷武です」
幽霊	「武君かあ。よろびくうー」
武	「何か古っ。こちらこそ、よろびく・・・」
幽霊	「なんとわたくし小川時子は武くんにとりついてしまったのでーす」
武	「彼女いるんで・・・無理です」
幽霊	「そういうんじゃないで、とりつくつてのは、祟りです。・・・」
武	「それって呪われてるつてことですか？」
幽霊	「ピンポーン！」

武	「なるほど・・・つてゆーか今すぐ出てってください、お願いします」 急に怖がる武
幽霊	「何でも言うこと聞く？じゃあお願いしたいことがあるんだけど・・・」
武	「何でしょう・・・」
幽霊	「実は私、百人の呪縛霊を成仏させないと、私が成仏できないんです。だからお願い。一緒に成仏手伝って！」
武	「マジで？断つたらどうなんの？」
幽霊	「呪います」
武	「・・・やるしかねーじゃん♪」 電話が鳴る
武	「もしもし？」
みなみ	「もしもし武？いきなり切るつてどういうこと？」
武	「大変なんだ今。さっき見た幽霊が俺の部屋にいて・・・」
みなみ	「つていう設定でまた私を呼び出したいの？」
武	「うん・・・違っ違っマジだつて！」

14	家美景
武NA	「こうして俺の摩訶不思議な体験が始まるのであった」
	続く

みなみ 「まあ何でもいいけど。早く寝な。お休み」  
切れる電話  
振り返る武  
笑顔でにつこり時子